

令和 6 年度 第 2 四半期（2024 年 7 月～9 月）景況動向調査結果

十和田商工会議所 中小企業相談所

1. 調査対象

(1)対象企業数 十和田商工会議所会員 25 事業所

内訳:建設業、製造業、卸売業、小売業、サービス業 各 5 事業所

(2)回答企業数 有効回答=24 事業所(回答率 96%)

2. 調査対象期間

今期=2024 年 7 月～9 月

- ・前年同月比=前年同期(2023 年 7 月～9 月)と比べた今期の状況
- ・前期比=前期(2024 年 4 月～6 月)と比べた今期の状況
- ・先行き見通し=今期と比べた来期(2024 年 10 月～12 月)の見通し

3. 調査期間 2024 年 9 月 11 日～9 月 25 日

4. 表示方法

本報告書中の「DI」とは、「ディフュージョン・インデックス、景気指数」の略で、各項目について、「上昇・増加」と回答した企業の割合から「下降・減少」と回答した企業の割合を引いた数値である。

DI値が 0 より上の場合=景気は上向き

DI値が 0 の場合 =景気は横ばい

DI値が 0 より下の場合=景気は下向き

5. 調査項目ごとの状況

(1) 業況DI

業況DIの現況判断は▲33.2 で、業種別にみると「建設業」「サービス業」が▲19.8 で最も高く、「小売業」が▲24.8 で続いている。

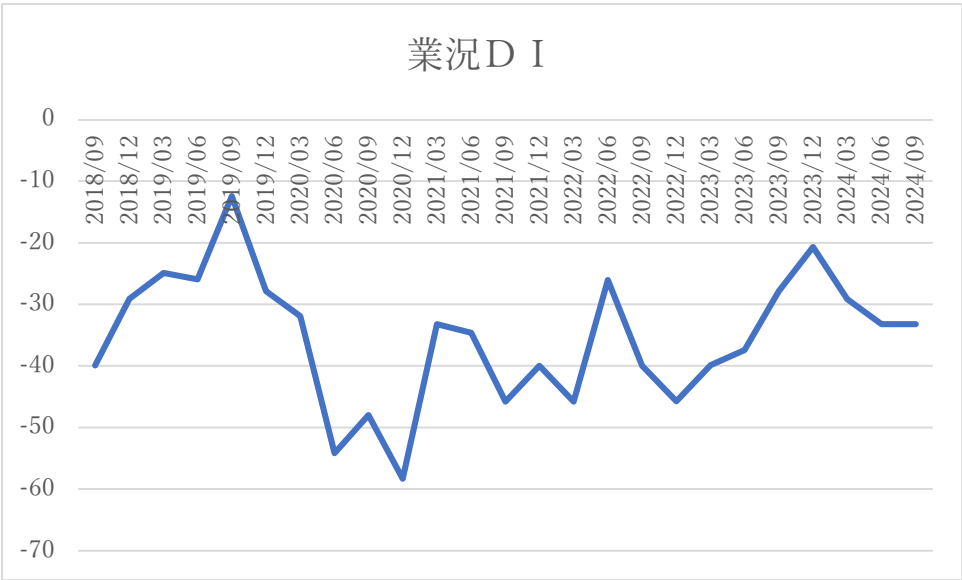
先行きは 8.4p悪化の▲41.6 で、業種別では「製造業」「卸売業」「サービス業」で横ばい、「建設業」「小売業」で悪化となっている。

図表1 業況DI

	2024 年 4～6 月期 (前回調査)	前期比	2024 年 7～9 月期 (今回調査)	前期比	2024 年 10～12 月期 (先行き)	今期比
全産業	▲33.2	↘	▲33.2	→	▲41.6	↘
建設業	▲20.0	→	▲19.8	↗	▲60.0	↘
製造業	▲40.0	→	▲40.0	→	▲40.0	→
卸売業	▲60.0	↘	▲60.0	→	▲60.0	→
小売業	▲24.8	↘	▲24.8	→	▲25.0	↘
サービス業	▲19.6	↗	▲19.8	↘	▲19.8	→
(参考)全国全産業	▲16.2	↘	▲14.1	↗	▲13.4	↗
(参考)東北全産業	▲22.2	↘	▲22.5	↘	▲18.3	↗

※（参考）は日本商工会議所 L O B O 調査の値を参照

D I = （好転の回答割合）－（悪化の回答割合）



（２）売上高ＤＩ

売上高DIの現況判断は▲28.9 で、業種別にみると「サービス業」が 0.6 で最も高く、「小売業」が▲24.5 で続いている。

先行きは 12.6p 悪化の▲41.5 で、「製造業」で横ばい、その他の業種で悪化となっている。

図表２ 売上高ＤＩ

	2024 年 4～6 月期 (前回調査)		2024 年 7～9 月期 (今回調査)		2024 年 10～12 月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲45.7	↘	▲28.9	↗	▲41.5	↘
建設業	▲40.0	↘	▲39.8	↗	▲80.0	↘
製造業	▲60.0	↘	▲40.0	↗	▲40.0	→
卸売業	▲60.0	↘	▲39.8	↗	▲60.0	↘
小売業	▲24.5	↗	▲24.5	→	▲24.8	↘
サービス業	▲39.8	↗	0.6	↗	0.4	↘
(参考)全国全産業	▲4.4	↘	▲3.3	↗	▲1.9	↗

※（参考）は日本商工会議所ＬＯＢＯ調査の値を参照

ＤＩ＝（増加の回答割合）－（減少の回答割合）

（３）採算ＤＩ

採算DIの現況判断は▲45.8 で、業種別にみると「建設業」が▲19.8 で最も高く、「小売業」が▲24.8 で続いている。

先行きは 8.4p 悪化の▲54.2 で、「製造業」で改善、「建設業」「小売業」で悪化となっている。

図表３ 採算ＤＩ

	2024 年 4～6 月期 (前回調査)		2024 年 7～9 月期 (今回調査)		2024 年 10～12 月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲45.8	↘	▲45.8	→	▲54.2	↘
建設業	▲20.0	↘	▲19.8	↗	▲40.0	↘
製造業	▲40.0	→	▲40.0	→	▲60.0	↗
卸売業	▲80.0	↘	▲60.0	↗	▲60.0	→
小売業	▲50.0	↘	▲24.8	↗	▲25.0	↘
サービス業	▲39.8	↗	▲80.0	↘	▲80.0	→
(参考)全国全産業	▲16.8	↘	▲16.4	↗	▲13.4	↗

※（参考）は日本商工会議所ＬＯＢＯ調査の値を参照

ＤＩ＝（好転の回答割合）－（悪化の回答割合）

（４）資金繰りＤＩ

資金繰りDIの現況判断は▲8.3 で、業種別にみると「建設業」「卸売業」「サービス業」が 0.0 で最も高く、「製造業」が▲20.0 で続いている。

先行きは 20.9p悪化の▲29.2 で、「建設業」「製造業」「卸売業」で悪化、その他の業種で横ばいとなっている。

図表４ 資金繰りＤＩ

	2024 年 4～6 月期 (前回調査)		2024 年 7～9 月期 (今回調査)		2024 年 10～12 月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲16.6	↘	▲8.3	↗	▲29.2	↘
建設業	▲19.8	↘	0.0	↗	▲40.0	↘
製造業	▲40.0	→	▲20.0	↗	▲60.0	↘
卸売業	0.0	→	0.0	→	▲20.0	↘
小売業	▲25.0	↘	▲25.0	→	▲25.0	→
サービス業	0.0	↗	0.0	→	0.0	→
(参考)全国全産業	▲12.4	↘	▲11.1	↗	▲10.8	↗

※（参考）は日本商工会議所ＬＯＢＯ調査の値を参照

ＤＩ＝（好転の回答割合）－（悪化の回答割合）

（５）仕入単価ＤＩ

資金繰りDIの現況判断は▲70.8 で、業種別にみると「建設業」「サービス業」が▲60.0 で最も高く、「小売業」が▲75.0 で続いている。

先行きは 4.1p改善の▲66.7 で、「建設業」「小売業」で改善、「卸売業」で悪化となっている。

図表５ 仕入単価ＤＩ

	2024 年 4～6 月期 (前回調査)		2024 年 7～9 月期 (今回調査)		2024 年 10～12 月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲83.3	↘	▲70.8	↗	▲66.7	↗
建設業	▲100.0	→	▲60.0	↗	▲40.0	↗
製造業	▲60.0	→	▲80.0	↗	▲80.0	→
卸売業	▲100.0	↘	▲80.0	↗	▲100.0	↘
小売業	▲75.0	↘	▲75.0	→	▲50.0	↗
サービス業	▲80.0	↘	▲60.0	↗	▲60.0	→
(参考)全国全産業	▲67.7	↘	▲63.4	↗	▲53.4	↗

※（参考）は日本商工会議所ＬＯＢＯ調査の値を参照

ＤＩ＝（下落の回答割合）－（上昇の回答割合）

(6) 従業員DI

従業員DIの現況判断は 0.2 で、全ての業種でやや不足となっている。

先行きは横ばいの 0.2 で、全ての業種で横ばいとなっている。

図表 6 従業員DI

	2024 年 4～6 月期 (前回調査)		2024 年 7～9 月期 (今回調査)		2024 年 10～12 月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	0.3	→	0.2	↘	0.2	→
建設業	0.2	→	0.2	→	0.2	→
製造業	0.2	→	0.0	↘	0.0	→
卸売業	0.4	→	0.2	↘	0.2	→
小売業	0.0	↘	0.0	→	0.0	→
サービス業	0.6	↗	0.4	↘	0.4	→
(参考)全国全産業	21.4	↘	22.1	↗	21.2	↘

※（参考）は日本商工会議所 L O B O 調査の値を参照

DI = （不足の回答割合）－（過剰の回答割合）

6. 業況感等に関する自由記述

コメント	業種
原材料、光熱費、資材、人件費等の値上がりでコストが上がる一方で今後の採算低下に影響してくる。価格転嫁もストレートに反映することは難しく、値上がり分の 30%～50%しか転嫁できそうにない。	卸売業
人件費上昇に伴い利益減。	サービス業
必要経費や仕入単価、消耗品の価格が軒並み上昇しており、非常に苦しい状況。値上げ等を検討している。	サービス業